

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3473900458		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホーム 瀬戸美		
所在地 (電話番号)	広島県豊田郡大崎上島町東野2727番地1 (電話) 0846-67-3306		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成 22年 1月 14日	評価確定日	平成 22年 1月 21日

【情報提供票より】(21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	軽 量 鉄 骨 造 り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,920 円	その他の経費(月額)	光熱水費 一日 350円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田村医院、ときや内科、射場医院、山本歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

おだやかな瀬戸の海と暖かい日差しに恵まれた島のグループホーム「瀬戸美」では、開設当時全員で定めた理念「住み慣れた島で自分らしい生活に生きがいを感じられるグループホーム」を現在も職員全員で共有し、年度初めに目標(S-PLAN)を定め、利用者一人ひとりがその人らしく、その時間を楽しく笑顔で過せるように、また普段の生活に自信をもって頂けるように支援をしている。日常生活では音楽療法・歌体操のほかにも多くのレクリエーションを取り入れたり、料理・洗濯・手芸・園芸などを楽しみながら行なっている。また散歩・ドライブなどのほかに隣の老人介護保健施設で共同して行なう年間行事では多くの知り合いの人に会えるのを楽しみにしており、ここを「第二の我が家」として生活する利用者の表情は明るく生き生きとしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は ①「評価の意義の理解と活用」で自己評価の作成に当たって職員全員参加の取り組みを期待することと ②「介護計画の作成・見直し」の時、家族との合意の署名・捺印を確実にし行なう事を期待するものであったが、いずれも全職員で現状を再認識し改善に向けて積極的に取り組み成果をあげている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価の意義や目的をよく理解しており、全員で話し合い、問題点や改善策を充分検討しサービスの質の向上につなげるよう積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>二カ月に1度会議を開催しホーム側から自己評価・外部評価の内容を報告したり、ホームの現状や問題点を報告・説明するとともに、出席者からの意見や助言を受けてサービスの質の向上に活かしている。</p> <p>会議の参加メンバーは民生委員、町会議員、地域包括支援センター職員、町(福祉課)職員とホーム関係者で構成され地域と密着した有意義な会議となっている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との面談時に利用者の近況報告を行なうとともに家族からの要望・意見を聞いている。定期的な報告としては担当者から家族への毎月の手紙や二カ月に1度発行する広報誌「あいらぶ瀬戸美」を送付している。意見・苦情等の受付については契約書・重要事項説明書に明記するとともに苦情処理委員が対応し、改善に向けて取り組む体制が整っている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>島の人達との馴染みの関係は深く散歩の際に挨拶を交わしたり、地域の行事やふれあいサロンへの参加、地元の中学生やボランティアの来訪、学校の運動会や音楽会への訪問などを通じて地域との連携を深めている。特に夏祭りの伝統行事である権伝馬競争には職員が選手として出場し、これを職員・利用者が一緒になって声援を送るなど地域と溶け込んだ生活を送っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時に職員全員で話し合い決めた理念、「住み慣れた島で自分らしい生活に生きがいを感じられるグループホーム」の実現を目指して職員全員で取り組み、利用者が地域の中でその人らしい生活を送れるよう支援している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を利用案内パンフレットに明記するとともに玄関やリビングに掲示し常に理念の実践に取り組んでおり、年度初めには理念に基づく年度目標を設定し日々の業務の中で話し合い具体的なケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	多くの利用者は地元で永年暮らして来た人達で地域の人々との関係も深く、散歩の際にあいさつを交わしたり、地域の行事(夏祭り・秋祭り等)、ふれあいサロンへの参加、地元中学生やボランティアの訪問、学校の運動会や音楽会に出かけたりして交流を深めている。特に夏祭り伝統の權伝場競争は職員・利用者全員が応援し地域との一体感を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的をよく理解し、評価の結果を具体的な改善に結びつけ、サービスの質の向上に活かしている。今回の自己評価に当たっては職員全員で取り組み、現状を再認識するとともに更なる改善に向けて努力している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に1回会議を開催し施設の現状や問題点を報告説明するとともに参加者からの意見・助言を受けてサービスの質の向上に活かしている。外部の参加メンバーは民生委員、町会議員、地域包括支援センター職員、町(福祉課)職員などである。		業務多忙の外部のメンバーが参加しやすいようにするために次回の開催予定日を会議の席上で周知するか、年度初めに年間の開催予定日を周知されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは相談や情報交換を行ない、緊密な連携を深めている。 コミュニティホールの管理、在宅介護支援センター、配食サービス事業の受託、ケアマネ協議会への参加などを通じて、町との連携は十分に行なわれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にはその都度面談して利用者の日常生活状況を伝えるとともに、家族の要望・意見を聞いている。また、毎月部屋担当者が手紙で利用者の様子や不足物を報告するほか、2か月に1度広報誌「あいらぶ瀬戸美」を発行し行事の様子・普段の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書・重要事項説明書に苦情受付・相談窓口を明記し、契約時に十分説明するとともに、意見や苦情については苦情処理委員が対応し、改善に取り組むことになっている。「ご意見箱」を玄関先に設置しているが、他の物のかげにかくれていて、その機能を果していない。	○	「ご意見箱」をよく見える場所に設置し意見や要望を気軽に記入できるような配慮をしていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については必要最小限に抑えているが移動があった場合は利用者へのダメージを防ぐために職員同士でフォローしあっている。 また日頃からユニット間の交流をよく行ない担当以外の職員と利用者が馴染める関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員教育の重要性をよく理解しており、法人内外の研修を受講できるように配慮し、社外研修受講者はその内容を社内で報告し、全員で勉強し資質向上に努めている。また新人にはマンツーマンのOJTによる研修も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネ協議会へ参加し地域の同業者との交流を行なうとともに、勉強会でサービスの質の向上や知識の向上につながる取り組みを行なっている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるように、入居前に利用者・家族の事前見学や担当ケアマネージャーの利用者宅訪問などによりお互いに信頼関係と馴染める環境作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を年長者として尊敬し、お互いに支えあい、いたわりながら調理・洗濯・掃除など普段の生活を一緒に楽しくゆったりと過ごすなかでそれぞれ生きがいを感じられるような支援を行なっている。また、ドライブ、カラオケなど暮らしの中で楽しみを持ち支えあえる関係づくりにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者との会話の中から一人ひとりの思いや希望を把握し生活記録に記入するとともに、家族の要望・意見も聞いたうえで、本人の希望がかなえられるような生活支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者の生活歴、家族の要望を聞き、介護上の課題を明らかにしたうえで利用者がより良く暮らしていくための介護計画を本人・家族・関係職員で意見やアイデアを出し合って作成し家族の承認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に定期的にカンファレンスを行ない、計画の見直しを行なっている。また、健康状態などに状況変化がある時は、毎月のユニット会議などでその都度、話し合いを行ない、利用者・家族・医師と相談のうえ見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共同型のデイサービスの利用のほかに、本人や家族の要望に応じて、通院・一時帰宅・墓参りなど、可能な限り柔軟に対応し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、出来る限りかかりつけ医の受診ができるように支援している。 また、介護に必要な診療情報を家族や医師と共有して、介護に反映している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の最善の対応策については、家族の意向を尊重し、かかりつけ医の意見や介護施設の状況を考え合わせて早い段階で方針を決め、全員で共有するようにしている。 重度化した場合の法人グループの体制としては同法人の介護保健施設を備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷つけないように言葉かけや対応に留意し良好な信頼関係を築いている。また、個人情報保護についての重要性を良く理解しており、関係書類はかぎ付きの保管庫や決められた場所で保管し管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や規則で利用者の行動を規制したり無理強いすることのないように心掛け、利用者のペースを大切にして、ゆったりと楽しく調理やドライブ・散歩などができるような時間をつくり、利用者一人ひとりのその人らしい生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立してから食材の買出し調理片付けまで三食とも、職員と利用者が一緒になって行ない、同じテーブルで一緒に楽しい食事の時間を過ごしている。 また食事は利用者一人ひとりが食べやすいように調理方法を工夫しやわらかい煮物などを多くするようにし、毎月体重測定をし健康管理も行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせていつでも入浴できるように支援している。本人の希望や体調に合わせて回数や時間帯は柔軟に対応している。毎日入浴する人もいるが、入浴に積極的でない人にはやさしく声かけをして週2～3回は入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力や可能性に合わせて、掃除・洗濯・食事の準備・片付けなどを職員と一緒に協力し合って作業をしたり、園芸・手芸・レクリエーションなどを通じて楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があればできるだけ外に出られるように支援しており、天候や体調に応じて散歩、買い物、ドライブや地域の行事への参加などを積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員はよく理解しており、日中は玄関に鍵をかけず、利用者の見守りをしっかり行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力のもと、避難訓練を実施している。訓練は日中・夜間想定をそれぞれ1回ずつ行なっていて、近所の方々に災害時の協力を依頼し、了解してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調や能力に応じて食事形態を工夫するとともに食事量や水分摂取量の管理を行ない記録し栄養のバランスがとれるように支援している。特に水分量の少ない人、持病などで水分管理の必要な人には記録に基づき細かく見守り支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング・廊下は明るくゆったりとしており、利用者の作品や行事の写真・生け花などが飾られ、家庭的な雰囲気作りができています。窓際や廊下にはソファや腰かけが置かれ、休息や談笑の場となっている。室内の空調・照明・音などにも充分配慮がされていて居心地の良い共用空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く自分らしい生活ができるように使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、思い出の写真や作品・花などで部屋を飾り、自分の部屋で自分らしく安心して過ごせるような工夫がされている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当時に職員で理念を決めをし、「住み慣れた島で、自分らしい生活に生きがいを感じられるグループホーム」を理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を玄関に掲示するとともに、理念に沿ってケアを行うよう努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入所時に理念の説明を行いつている。また、面会者に理念を知っていただくために玄関に理念を掲示している。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人に会った時にあいさつを交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	散歩に出かけたり、地域の行事（夏祭り・秋祭りなど）への参加をして地域の方との交流を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議にて地域の民生委員や、そのほか関係者と一緒に地域の高齢者への対応や相談など話し合いを行い、情報交換をしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	玄関に自己評価・外部評価をだれでも見れるようにファイルにとじて、啓示をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2 か月毎に町の担当者・地域包括支援センター・民生委員・その他多数の方々に参加していただき情報交換を行っている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	役場の担当者に分からないことがあればその都度確認を取るようになっている。また、ケアマネ協議会にも参加を行い情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修があれば出来る限り参加するようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ご利用者に対して虐待が行われないように、職員間でその方にケアに対しての話し合いを行っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約についてはご家族・ご利用者へ説明を行い、お互いが納得ができるように話し合いを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や・意見等あればミーティングで話し合いを行い改善をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月部屋担当者が、利用者様の様子や不足物などを手紙にて報告している。また、2カ月に1度「I love 瀬戸美」という広報誌を作成し、行事の様子・普段の様子を伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置、家族の来訪いや家族会に手聞き取りを実施し、それらを基に職員で話し合いを行って改善をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングにて職員の意見や提案を聞き改善を行うようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	本人やご家族の要望に対応できるように勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は最低限としている。やむを得ず移動する場合は出来る限り、利用者へのダメージが少なくなるよう、普段からコミュニケーションをとるようにしている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人にはマンツーマンで指導ができるようにしている。また、全職員が目標を設定し、達背に向けて努力している。また、研修に参加したら全体会議にて報告を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ケアマネ協議会に参加をし、情報交換を行うとともに、サービスの質の向上や知識の向上につながる取り組みを行っている。(勉強会)		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員より相談事があれば話し合いを行い改善に向けて努力をしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	研修への参加を職員に促している。また、目標管理制度・人事考課制度を取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所前に訪問調査を行い、ご利用者が不安に思っている事・困っていることなど聞き入れケアに取り入れている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に訪問調査を行い、ご家族が不安に思っている事や、どんなことで困っているかなどを聞き出しケアに反映ができるように対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当のケアマネジャーと話をしその方に対して、出来るだけ適した支援ができるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者家族の入居前に、見学や担当ケアマネジャーとの利用者宅訪問などを行い、お互いに信頼関係となじみの関係づくりを行うようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・洗濯・掃除など利用者ができる事を職員と生活を共にしている環境づくりを行っている。また、ドライブ・カラオケなど暮らしに楽しさを持って支えあえる関係づくりを行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にもご協力をいただき、一緒にご利用者を支援していただくようにしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族にご協力をいただき、可能であれば面会の回数を増やしていただくようにし、ご利用者との関係をも多く持っていただくようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設の老健の通所リハの方で知人の方がおられ、その方の希望があればいつでも面会ができるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同士でよりよい関係が持たれるように職員が間に入りお互いコミュニケーションが取れるようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了したとしても相談事があれば対応させていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションの中で、希望を生活記録に記入し、以降の把握に努めている。家族とも相談を行い利用者の希望がかなえられるように努力も行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネ・ご家族より現在・以前の状態や、昔行っていたことなど情報を収集してサービスに活かすことができるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者の瀬戸美での生活状態や、心身状態などのアセスメントを行い総合的に判断ができるように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入所時に利用者の生活歴、家族の要望を聞いたうえで利用者がその人らしく生活していけるようにアイデアを出し合って介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月ごとに定期的カンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。また、毎月のユニット会議にて健康状態など急な変化があった場合はその都度話し合いを行い、家族・利用者・医師と相談をして見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践内容・気づき等は生活記録に記入を行っている。また、気づいたことがあれば、ミーティングにて検討を行い介護計画の見直しや個別の対応方法に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	共同型のデイサービスを行っておりなじみながらの利用に役立っている。その他、本人やご家族の要望についても相談をしながらできるだけ柔軟に対応し、支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	その方の必要に応じて、地域のサービスの利用を行っている。(外出支援サービス)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて、他のサービスが必要な場合は事業者と話し合いを行うようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等で、必要性に応じて連携を取っていくようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望を大切にして、かかりつけ医の地震ができるようにしている。また、介護に必要な診療情報を家族や医師と共有して、介護に反映している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要性があれば、専門病院への受診をご家族へ相談を行い受診ができるように支援している。また、その際は、普段の様子などを記入して適切に治療ができるように対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の老健のNSと連携を行っている。緊急時・その他日常生活で不安があることがあればすぐ相談を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族の意向を尊重しかかりつけ医の意見や介護施設の状況を考え併せ決める事を方針としている。重度化した場合、同法人の介護保険施設も備えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	病院と相談を行い早期療人ができるようであれば、その後の治療方針・対応の仕方など相談を行い対応がすぐできるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	他の施設への入所の際は、出来る限り環境を変えないで済むように情報の提供や話し合いを行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	トイレへ行かれる際は直接的な表現を避けるなどの配慮を行っている。重要な個人情報や日々の記録についてはかぎ付きの保管庫や決められた場所に保管を行い管理している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	普段の生活の中で、出来る限りご利用者の自己決定ができるように説明を行い、出来る限りご本人が納得できるように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の様子を見て、出来る限りご利用者のペースで調理やドライブ・散歩などへお誘いを行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご利用者の希望があれば出来る限りご本人の希望に沿うようにし、ご本人の望む店へ行けるようにしている。また、職員もご本人の身だしなみを整えるようにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は3食ともホームで用意し調理など利用者と職員が一緒に行っている。また、ご本人が食べやすいものを出来る限り提供している。また、毎月体重測定を行い健康管理も行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば出来る限り個別で対応を行うようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご利用者一人一人に合わせたトイレ誘導を行っている。また、排泄パターンを把握できるようにミーティング等で話し合いも行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご利用者の希望があればいつでも入浴ができるように対応している。入浴に積極的でない方も週2~3回は入浴ができるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりに合わせて気軽に休めるように支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除・洗濯・食所の準備・手芸など利用者それぞれの役割、楽しみ事の支援を行い、出来る限り生きがいを持って生活ができるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の状態に合わせて可能であれば金銭をご家族と検討したうえで所持していただくようにしている。所持されている場合は、そのお金を使えるように支援もさせていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日にドライブ・散歩などのレクを盛り込み外出ができるように支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご希望の外出先があれば可能な限り外出ができるように支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、その都度、電話をして話をさせていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方が訪問差入れた際は、自室へ案内してゆっくりと過ごしていただくようにして対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設の老健と協力して、身体拘束委員会を設置。身体拘束についてマニュアル作成や身体拘束をしないケアを行うように検討している。現在瀬戸美では身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	カギをかけることへの弊害を理解している。日中は玄関にかぎをかけず。玄関にセンサーを設置し利用者の外出に職員が気づけるように対応している。その際、職員が見守りや会話にてサポートも行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	出来るかぎりが今どこで何をしているのかを把握し、出来る限り安全に生活ができるように配慮を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	そのときのご利用者の状態により、職員で検討し、危険なもののみ取り除くようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を設置し、事故防止に努めている。また、事故報告書・ヒヤリハット報告書を記入する際、改善策を検討・記入を行い再発の防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	消防署の協力のもと、全職員が緊急時の手当てや人工呼吸・心臓マッサージなどの講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。(日中・夜間想定1回ずつ) また、近所の方に災害時に協力をさせていただくようお願いをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こりえるリスクについては、家族の方へ説明を行うとともに今後の生活に対する対応策と一緒に検討をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化が見られた際は、必ず申し送りを行い、看護師・家族へ連絡を行い、必要があれば病院受診をさせていただくようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬チェック表を元に薬の数を把握している。また、処方箋により薬の内容や副作用・注意点を確認するようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘をしやすい方に対しては、野菜や乳製品などをしっかりとっていただくとともに、体操など体を動かして便通を良くするようにして対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず、口腔ケアを行うようにしている。また、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシを使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った食事量や食事形態・水分摂取量の管理を行い記録にしている。また、一人ひとりのご利用者の状態や習慣などに応じて、食事時間を変更するなどの対応を出来る限りで行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止委員会に手感染症の予防に努めている。また感染防止マニュアルを作成し感s燃焼に対しての対応や取り決めを行い実行をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、夜間に調理器具をハイターにて消毒を行っている。また、食材は毎日購入をするようにし、安全で新鮮なものを使用して調理を行い提供をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植えたり、飾り物を行い、入りやすい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングに紙細工・行事の写真・花などを飾り生活を楽しむ空間を作っている。また、くつろぎの場所を増やすようにソファを置き会話の場所となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれる場所や・数人でゆっくりと過ごせるスペース（建物両端にソファを設置）を作り、ゆっくりと過ごせるように対応している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ぬり絵やご自分で作られたものを飾ったり、使い慣れた家具を置くようにして、利用者が心地よく過ごせるような居室を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気を行っている。また、室温・湿度の確認を行い、そのときの状態により調整を行い利用者に出来るかぎり負担が生じないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に生活をしていただけるように手すりをつけたり滑り止めを設置し、出来る限り安全で、自立した生活が送れるように支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの状態を把握し、難しいところを支援していくようにしている。出来るところやわかるところは出来る限りご利用者の力で行ってもらうようにし出来る限り自立して生活ができるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外にベンチ・花壇・畑を設置し、外でくつろげるスペースや活動ができるスペース作っている。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 ③	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 ①	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 ③	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 ①	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 ②	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 ③	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 ②	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。 ②	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 ②	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念を職員で検討して「住み慣れた島で自分らしい生活に生きがいを感じられるグループホーム」と定めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を元にご利用者に対して、その方に対しての援助について不足していること・逆に過剰しているところを話し合い、その方にあった介助を実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念の説明を、入所時に説明を行っている。また、パンフレットにも掲載している。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の散歩の際に、出会った方にあいさつを行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元の神社へお花見に行ったり夏祭りの権伝馬競争に酸化・見学したりと地域の交流に努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の際、民生委員より相談を受けた際、出来る限り返答を行っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を元にし、改善していくべきところは改善に向けて努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、参加者よりアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	何か相談事があれば、介護保険課へ相談をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修へ参加して制度について学んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ご利用者に対して虐待が行われないように職員間で話をしている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・退去されるにあたり、ご利用者・ご家族へ説明・助言を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	不満・苦情などがあればいただき、苦情処理委員と一緒に改善を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、ご家族に対してご利用者の瀬戸美での暮らしぶり・健康状態など報告している。また体調不良時にはそのつど連絡をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満・苦情などがあればいただき、苦情処理委員と一緒に改善を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングにて職員の意見や提案を聞き改善に向けている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	業務についての改善をミーティングで行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	出来る限り、職員の異動は最低限としている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が法人内外の研修を受けている。また、法人外の研修についてはミーティングにて報告を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員が地域のケアマネ協議会へ参加し、地域の同業者と交流を持っている。また、勉強会でサービスの質を向上につながっていると思われる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員より相談事があればその都度、相談し改善に向けて努力している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	研修への参加を職員に促している。また、目標管理制度の取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所前に訪問を行い、ご利用者が不安に思っていること・困っていることなど聞き出している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に訪問を行い、ご家族が不安に思っていること、どんなことで困っていたのかなど聞き出している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当のケアマネと話をしてその方にあったサービスを利用していただくようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に話をし、出来る限りご利用者が不安にならないようにしている。また、共同型のデイサービスの利用を行ってもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限りご利用者の持っている力を発揮できるようにし、お互いが協力して生活が出来るように支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	事あるごとにご家族と電話や手紙等でお話をし、情報の共有ができるように努めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族にご協力を頂き、可能であれば面会の回数を増やしていただきご利用者との関係を持つていただくようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時間を見てはドライブの折にお客様の馴染みの場所を通り、何か行事があれば参加していただけるように思案し、協力して行動している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクリエーションの時間をしっかりととり同じことに参加していただくことで連帯感を感じていただいたり職員同士で話し合いを行い、席替えを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても何か相談事があれば受けようとしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族と相談をし、出来る限りご利用者の希望がかなえられるように努力している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネ・ご家族より情報を頂き、情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	担当ケアマネ・ご家族より情報を頂き、その方の状態の把握に努めている。また、ご利用者の瀬戸美での生活状態にて把握するように勤めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	情報を基に、職員と話を行い、ミーティングにて話し合いを行い、介護計画を作成している。	○	家族も一緒に介護計画について検討していければと考えている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要があればその都度、見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践を記録に記入している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	出来る限り、その要望に応じ た対応を出来る限り行ってい る。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、 民生委員やボランティア、警 察、消防、文化・教育機関等 と協力しながら支援している。	必要に応じて、地域のサービ スを利用している。(外出支 援サービス)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、 地域の他のケアマネージャー やサービス事業者と話し合い、 他のサービスを利用するための 支援をしている。	必要があれば、他のサービスの 利用のための話をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、 権利擁護や総合的かつ長期的 なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働 している。	必要があれば、相談をしてい る。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られた、かか りつけ 医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられる よう支援している。	出来る限り、ご利用者の、か かりつけ医の所へ受診をし ていただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要があれば、専門医への受診をしていただき、相談をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご利用者の体に変化が見られたらその都度看護師へ相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院と相談をし、早期退院が出来るようであれば、その後の治療方針・対応の仕方など相談している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	出来る限り、重度になった方は併設の老健へ入所していただく方向で話をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療が必要な方・今後必要になる可能性のあるご利用者についてはかかりつけ医と相談をし、今後の方針を検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	他の施設への入所の際は、出来る限りの情報を提供している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりのご利用者に対しての言葉かけについて配慮を行っている。また、個人情報については必ず文章にて同意を得て使用している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来る限り、ご利用者の自己決定を促すような言葉かけを行うよう努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限りご利用者の希望をかなえるように、希望を聞きだす努力をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご利用者の希望があれば出来る限りご本人の望む店に行くようにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時にはお客様から要望を聞きメニューを立てたり、味のバランス・量などを考えながら支援を行っている。また、体調や様子を見て食事の準備片づけなどを職員と一緒に行っていただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お客様の好みを知り、また、体調や変化に合わせてさりげなく水分の大切さなど説明を行い、楽しく食事ができるように努めている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄感覚を把握し、早めの声かけを行っている。また、移動前・レクリエーション前などに声かけを行い気持ちよく過ごしていただけるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴美、体調を見ることはもちろんだが、声かけを行い、その日の気分などいかがい、心地よく入浴いしていただけるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	そのときの状態に合わせて、休めるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る限り、ご利用者の持っている力を発揮できる場を作るように配慮している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用者の状態に合わせて、可能であればお金を少し持つていただくようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があればその都度、外出・散歩などが出来るように している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援し ている。	定期的にドライブや外出を計画している。行事等に季節 を感じられる行事を予定し、実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている。	家族の方への関わりや情報共有を親密に行うため、1カ 月に1度手紙の配送やパンフレット・広報の配布を行っ ている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽 に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	定期的に家族会として家族の方と交流の場を設けてい る。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の 対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をし ないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設置し、全職員への周知・徹底を している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの 弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員が人目もあり、見守りが徹底できる時間帯はカギを かけないようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ご利用者一人一人の様子をボードに記入し、記録に残せる ようにし、把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状 態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	お客様一人ひとりの特性を把握し、ヒヤリハットやカン ファレンス等に手周知・徹底をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一 人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を設置し、事故防止に努めている。また、 事故が起きた場合・ヒヤリハットがあれば必ず、改善策 を記入し再発の防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初 期対応の訓練を定期期に行っている。	新人を含め、全職員への訓練講習を定期的実施してい る。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難でき る方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう 働きかけている。	災害の会った際、協力をしていただけるように近所の方 に話をして承諾を得ている。また年2回、囑望所と協力 をして避難訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧 感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ケアカンファレンスとしてミーティングや委員会にて対 応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化が見られた際は、必ず申し送りを行い、看護師・ご家族へ連絡して必要があれば病院受診をしているようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬チェック表を元に薬の数を把握している。また、処方箋により、薬の内容も確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘しやすい方に関しては、野菜や乳製品などをとっていただく・体操などで体を動かしていただき対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後には必ず口腔ケアの声かけを行い、自分でできない方は介助し行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事はお客様が食べやすくおいしく食べられるよう工夫（食事形態・分量等）している。また、食事量・水分量をチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会よりマニュアルが設置しており、マニュアルに基づき実行をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、夜間にはハイターで消毒を行っている。食材については新鮮な食材を使用している。古いものについては処分をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に花を植え、入りやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は出来る限り清潔にしている。また、脱衣場にはカーテンを引き、プライバシーに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓側にソファを置いている。また、リビングの横には和室もあり、お客様同士で休まれたりしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前から使用している布団やテレビを持ってきていただいております。出来る限りご利用者が自分の部屋と感じていただけるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に窓を開け換気を行っている。また、温度・湿度の調節をこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、お風呂場には手すりが付いている。また、お客様にはスリッパや杖を持ってもらい生活をしていただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る限りご利用者の力を発揮していただけるようにし、出来る限り自立した生活が出来るように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	時間を見てはその日のお客様の体調を考慮しながら、散歩等に御誘いし、花の色や景色の情景を話し合ったり、部屋に飾る花を摘んだりしている。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 ③	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 ①	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 ③	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 ①	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 ②	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 ③	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 ②	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。 ②	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 ②	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 ②	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目